

令和6年度 事業並びに活動報告

1. 教育に関する事項

- ① 日本助産師学会
- ② 日本助産師会南北関東地区研修会
- ③ 母子保健家族計画全国大会
- ④ 日本助産学会・学術集会
- ⑤ 日本家族計画協会研修会
- ⑥ 日本母性衛生学会・学術集会
- ⑦ 静岡県母性衛生学会・学術集会
- ⑧ 静岡県助産師会研修会
- ⑨ 浜松市助産師会研修会
- ⑩ 母乳育児セミナー
- ⑪ 母子保健セミナー
- ⑫ 母子継続看護連絡会
- ⑬ 浜松市医療安全研修会
- ⑭ 看護師・助産師養成学校への講師派遣
- ⑮ せいれい看護学会
- ⑯ 乳幼児精神保健学会

2. 運営に関する事項

- ① 浜松市助産師会 役員会・幹事会
- ② 静岡県助産師会 役員会・理事会
- ③ 日本助産師会通常総会・静岡県助産師会通常総会・浜松市助産師会通常総会
- ④ 専門部会・委員会の活動
- ⑤ 行政委託事業・個人別雇い上げ事業打ち合わせ
- ⑥ 浜松市母子保健推進会議
- ⑦ 要保護児童対策地域協議会
- ⑧ 自殺未遂者支援体制検討会
- ⑨ 母子包括支援ネットワーク会議
- ⑩ GDM 世話人会
- ⑪ 助産師業務拡大に向けてのPR活動

3. その他の事項

- ① 浜松市助産師会主催事業
- ② 行政委託事業
- ③ 個人別雇い上げ事業
- ④ 依頼による講座・相談事業
- ⑤ 湖西市消防隊員との分娩取り扱いに関する勉強会

●令和6年度 定例役員会

県理事会報告（日本助産師会含む）・浜松市各部会及び委員会報告・幹事会の準備・総会の準備

- 第1回 令和6年 7月 11日
- 第2回 令和6年 11月 22日
- 第3回 令和7年 3月 29日

●令和6年度 幹事会

県理事会報告（日本助産師会含む）・浜松市各部会及び委員会報告・その他

- 第1回 令和6年 8月 1日
- 第2回 令和6年 12月 5日
- 第3回 令和7年 3月 31日

令和6年度 会務並びに庶務報告

令和6年

4月 5日	浜松市立看護専門学校入学式 電報	役員
4月27日	第124回 浜松市助産師会通常総会	会員
5月13日	浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター（あいホール）出前講座「女性がいきいきと働き続けるために」-* あいホール担当者と（株）坂井モーター担当者との打ち合わせ	宇田
5月24日	* 講座 （株）坂井モーター女性社員数名	宇田
5月 15日	第1回 GDM 世話人会	齋藤
6月 8日	しづおか子育て防災ネットワーク 防災講座講師	齋藤
6月17日	* あいホール担当者と（株）遠鉄ストア担当者との打ち合わせ	宇田
6月 29日	GDM 研修会	会員
7月 4日	第1回 浜松市母子保健推進会議	齋藤
7月 5日	社会福祉法人ひかりの園・相談支援事業所など「妊娠婦への対応」職員研修打ち合わせ	宇田
7月11日	* 講座 （株）遠鉄ストア社員70名	宇田
7月22日	同上研修 静光園職員70名	宇田
8月 8日	第1回 自殺未遂者支援体制検討会	齋藤、高洲
8月 9日	第1回 繼続看護連絡会	役員
8月21日	第2回 GDM 世話人会	齋藤
9月 3日	第1回 要保護児童対策協議会代表者会議	齋藤
9月 8日	研修会：みんなで防ごう授乳期乳腺炎 ～乳腺炎の新しい知見をふまえて～神崎正夫先生	会員
同	浜松市助産師会臨時総会	会員
10月 2日	第3回 GDM 世話人会	齋藤
10月15日	しづおか子育て防災ネットワーク総会	宇田
10月 25日	第1回 母子包括支援ネットワーク会議	齋藤
11月 5日	第2回 自殺未遂者支援体制検討会	齋藤、高洲
11月29日	第2回 繼続看護連絡会	役員
12月9,10日	湖西市（消防隊員）との分娩取り扱いに関する勉強会	役員、金田、豊田、原
12月 14日	GDM 研修会	会員

令和7年

1月 15日	第3回 自殺未遂者支援体制検討会	齋藤
1月 16日	年頭挨拶まわり（市長、健康増進課、子育て支援課）	役員
2月 13日	第2回 浜松市母子保健推進会議	齋藤
同	浜松市こども家庭部子育て支援課 子育て支援ひろば担当者連絡会 講義 ひろば担当者50名程度	宇田
2月 19日	第4回 GDM 世話人会	齋藤

2月19日	(一社) ここみ 産前産後サポート基礎講座	数名	宇田
2月28日	第2回 母子包括支援ネットワーク会議		齋藤
3月 8日	第2回 要保護児童対策協議会代表者会議		齋藤
3月 4日	浜松市立看護専門学校卒業式 電報		役員
3月17日	医療連携検討会議		齋藤、高洲

通 年	浜助・お知らせ作成、送信	小川
	各表彰者推薦書提出	齋藤
	浜松市健康増進課 委託事業打ち合わせ	齋藤 他
	浜松市子育て支援課 委託事業打ち合わせ	齋藤 他
	浜松市各区地域支援連絡会出席	齋藤 他

●受賞関係

令和6年度表彰

- ・社会福祉法人恩賜財団 母子愛育会会长表彰 押川 浩美様
- ・公益社団法人 母子保健推進会議会長表彰 白井 まみ様
- ・一般社団法人 日本家族計画協会会长表彰 木下 光代様

●入会・退会者（敬称略 令和7年4月1日現在）

入会者 令和6年度 安間智美、稻葉和音、斉本美津子、下川愛子、高井未来、竹内優子、長屋里穂、村石未来
 令和7年度 小林弥生、島田文恵

退会者 稲垣恵子、藤原京子、水谷笙子、森本俊子、山口香苗

●会員数 83名（令和7年4月1日現在）

名誉会員1名、特別会員4名、正会員78名

- ・助産所部会 2名
- ・勤務助産師部会 33名
- ・保健指導部会 48名

令和6年度 勤務助産師部会 活動報告

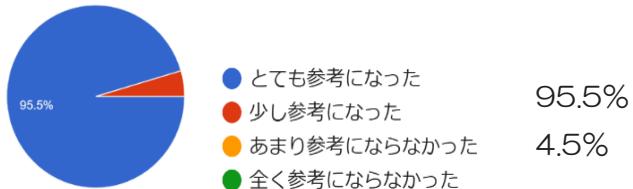
部会長 安田 孝子
副部会長 嶺岡 永味子

I. 活動内容

勤務助産師部会・助産所部会合同研修会

1. 演題 産後ケアの現状と今後 ～家族の幸せを願って～
2. 講師 木村産科・婦人科 医 師 木村聰先生
木村産科・婦人科 助産師 池平香奈先生
浜松医科大学附属病院 助産師 森永典子先生
3. 日時 令和6年11月17日（日）10:00～12:00
4. 場所 浜松医科大学 臨床講義棟1階 大講義室
5. 受講 助産師、保健師、看護師、学生 申込36名、出席33名
6. 方法 対面
7. 受講後のアンケート結果（回答22名）

- 1) 研修会はいかがでしたか？



- 2) 研修会の内容で最も印象に残ったことはどんなことでしたか？（回答22名）抜粋

- ・日頃から産後ケアを展開していく中で、利用者さんとの関係も良く伴走できるケースもいれば、理不尽なわがままに翻弄されたりと多くの課題が山積している現状も共有でき心強かったです。また時間拘束の割に経営面でも厳しい現状も展開している者でないと分かり合えない部分もあり、それらも発信していかなければ後継者が期待できなくなることも感じました。レスパイトも大切ですがその中でも自宅に帰ってから育児とどう向き合い上手くレスパイトを入れていくかなど考えると100%の預かりについても慎重に対応していくかなければならないと感じました。貴重なお時間をありがとうございました。
- ・産後ケアのこちらの思い（母子の今後に向けてのケアの提供）と母の思い（休息や児の預かりが中心）の違い、それに対するジレンマ。
- ・少なくとも、公費を増やして赤ちゃんからママを引き離すようなことをしてはいけないと思った。産後ケア事業の開始は産後1年間の産婦死亡の最多原因が自殺となった経緯があるため、レスパイト目的が最多であることは想定できる。ただ、助産師が関わるということであれば、子どもの気持ちを代弁する役割もあり、親をエンパワーメントする方法への工夫を考えなければならない。オランダでは在宅での産後ケアと家事支援をセットにしていることが長い目でみた親支援になっているとか。また、ソーシャルキャピタルの形成にクリニックの無料の集会が役立っていると思った。一方、市内25か所の子育て支援ひろばや親子ひろばが上手くPRできていないとわかった。

- 3) 今後の研修会の要望や意見をお書きください。（13名）

- ・同じ内容で今後の事などを考える為に、話し合いの時間がほしい。
- ・色々な産科施設の方と授乳や母子のケアなどについてお話しできる機会があるとうれしいです。
- ・具体的な産後ケアの実践を聞くことができ、とても勉強になりました。開業助産師の方がどのように産後ケア事業を実践しているのか知りたいと思いました。
- ・各施設や保健師も交えて意見交換の場を希望します。実施のノウハウや各施設の特徴(木村産婦人科のように上の子も泊まれるなど)を知りたいです。
- ・企画から当日まで本当にありがとうございました。講師の先生方にも貴重なご講義いただいたことに感謝します。今後の希望としては、勤務部会研修なので、勤務先がそれぞれであり直接お話する機会もないと思うのでグループワークができれば良かったかと思いました。

令和6年度 助産所部会 活動報告

部会長 高橋 明美
副部会長 高林 香代子

I. 活動内容

1. 助産所部会独自としての活動はなく、勤務助産師部会と合同で研修会に参加した。
(勤務助産師部会活動報告参照)

II. 今後の課題

1. 浜松市及び静岡県が災害発生時に有床助産所に対してどのような期待をしているのか、またどのような具体的な支援要請があるのか情報収集の必要がある。
2. ガイドラインに沿った助産行為や、母子保健事業における助産院の適切なサービス提供の在り方を検討し、実施していく必要がある。

令和6年度 保健指導部会 活動報告

部会長 濱角 由美子
副部会長 宮崎 順子

I. 活動内容

1. 浜松市との会議・活動

- (1) 母子訪問事業・産後ケア事業（健康増進課・各区健康づくりセンター）
- (2) 「子育て支援ひろば」における妊婦支援事業（子育て支援課）
- (3) 母子継続看護連絡会

2. 研修会参加

- (1) 令和6年10月19日 県保健指導部会研修会
「予祝ばーす～人生が変わる出産体験の道～」：Sola Clinic 渥美陽子院長
- (2) 令和6年11月28日 令6年度浜松市医療安全研修会
「事例から学ぶ医療問題の対処方法」：前田法律事務所 前田香一郎弁護士

3. 保健指導部会活動

- (1) 保健指導部会（対面及びオンライン開催）
令和6年4月27日、6月17日、10月30日、令和7年3月6日
- (2) プレママひろば（3回継続参加型）
第13回 3回目 令和6年9月30日
第14回 令和6年7月29日、8月26日、令和7年3月10日
第15回 令和7年2月3日、3月6日
- (3) 「助産師のケアを受けてみませんか？」運用
 - ・マニュアル作成（助産所部会を含む）
 - ・パンフレット発行 令和7年3月下旬

4. 静岡県助産師会活動

- (1) 保健指導部会 地区代表者会議（対面及びオンライン開催）
令和6年5月25日、7月5日、9月6日、11月29日、令和7年2月21日

5. 教育活動

- (1) 聖隸クリストファー大学 助産学専攻科 母子（妊婦を含む）訪問実習指導、講義依頼
- (2) 聖隸クリストファー大学 看護学部 母性看護学講義依頼

令和6年度 教育委員 活動報告

保健指導部会教育委員 大石 恵美子
勤務助産師部会教育委員 成岡 千恵子

I. 活動内容

1. 研修会

テーマ：みんなで防ごう授乳期乳腺炎～乳腺炎の新しい知見をふまえて～

日時：令和6年9月8日（日）10:00～12:30

場所：浜松市福祉交流センター 2階 大会議室

対面およびオンライン（ZOOM）によるハイブリッド開催 リアルタイムおよび録画配信

講師：神崎正夫先生（とちくぼ乳腺クリニック 名誉顧問）

内容：1) 乳腺炎とは

2) 乳腺炎の原因

3) 授乳期乳腺炎の予防・治療について

参加者：76名／会員44名 非会員32名

（対面33名 オンライン13名 録画配信30名）

参加者の感想や意見（アンケート回収率53.9%）

図 セミナー満足度

1) セミナーの満足度：

満足 33名 (80.5%)

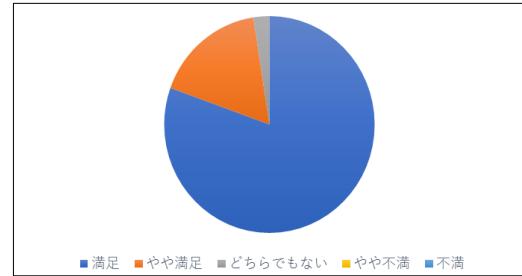
やや満足 7名 (17.1%)

どちらでもない 1名 (2.4%)

やや不満、不満 0名

2) 感想

- ・知らない知識を得ることができた。また知識を更新することもでき、大変有意義な時間となった。先生が助産師の役割について話されているところを聞き、改めて助産師としての活動の意味を考えさせられた。
- ・理解しやすい講義と症例を用いた内容がとても良かった。
- ・欲しい答えを得ることができ、明日からでも自分のすべきことが見えてきた。具体的な方法を知ることができ、大変よかったです。
- ・新しいプロトコルに基づいていて わかりやすかった。
- ・悩みも共有でき、先生の見解もとてもわかり易かったです。
- ・感じたり、普段考えたり、やっていたケアの確認ができた。特に白斑の機序については、スライドを見直してアーカイブで学び直したいと思う。時間が足りないくらいだった。
- ・もっと質問できる時間があった方が良かった。
- ・とても難しかった。頭の整理が必要。



II. 活動評価

今年度は乳房ケアという実践に即した内容に焦点を当てた企画とした。参加者からは、日々の疑問や困りごとに関する質問が多く聞かれ、予定時間を延長して質疑応答の時間を設けても足りないほどであり、ニーズの高いテーマであることがうかがえた。また、受講方法は前年度同様に録画配信を取り入れたことで、研修の振り返りや自身の生活に合わせた受講ができると好評であった。次年度も引き続き、多くの会員の関心が高い有意義な研修を企画していきたい。

令和6年度 推薦委員 活動報告

推薦委員 西村 奈々
織田 諭美子
竹村 民千佳

I. 活動内容

今年度は、活動していない

令和6年度 会則委員活動報告

会則委員 稲垣 恵子
三室 静香
押川 浩美

I. 活動内容

浜松市助産師会会則に定めた項を変更することとなり、総会に諮り、改正した。

4月27日 浜松市助産師会通常総会

会長からの会則改正の概要についての説明の後に、会則の新旧対照表に沿って改正点の詳細を説明。審議の結果、承認された。

改正項目：第1章第1、4条、第4章15条、第5章18、27条、第7章37、39、40条

また、「名誉会員」について会長より提案があり、審議の結果、承認された。

7月中旬 会則変更案を作成

8月1日 第1回幹事会

「名誉会員」に関する会則変更案について説明し、審議の結果、幹事より承認を得た。

9月8日 浜松市助産師会臨時総会

「名誉会員」に関する会則変更案について説明し、審議の結果、承認された。

改正項目：第2章第5、6条

令和6年度 災害対策委員 活動報告

災害対策委員 原 真理子
高橋 明美

I. 活動報告

1. 日本助産師会会員の安否確認訓練

日時：令和7年1月10日(金) 10:00～

内容：「愛知県西部で震度6の地震あり静岡県西部も震度5、中部震度4、東部震度3程度。道路の寸断あり、断水、停電あり」の想定で、メールやLINE、電話で安否確認実施。72時間で浜松市助産師会全会員の安否確認が完了、訓練終了後に静岡県助産師会（地区理事）に報告。

今回は各地区統一した被害を想定で実施。

2. 湖西市消防隊員との分娩取り扱いに関する勉強会

日時：令和6年12月9日(月)、10日(火)

内容：出産介助訓練の講師として、浜松市助産師会メンバーが参加。

3. 浜松市助産師会主催による災害対策勉強会の開催

令和7年2月1日(土) 14:00-15:00

テーマ：「災害小児周産期リエゾンの活動と開業助産師介入の必要性」

講師：聖隸浜松病院 総合周産期母子医療センター新生児科部長 副センター長 杉浦弘先生

形式：対面での講義+グループワーク

4. 令和6年災害対策連携集会にて意見交換

5. 災害対策地区代表者会議出席

令和6年度 出前講座事業報告

I. 活動内容

講座	()	：対象
幼稚園・保育園	(年長)	：5園 5講座
小学校	(1～6年生)	：11校 16講座
浜松市思春期教室	(中学2年生)	：9校 10講座
中学校	(1～3年生)	：7校 15講座
高校	(1年生)	：1校 2講座
その他		： 1講座
いのちのイベント参加		： 1講座

II. 総括

- ・小学生向けの講座では、従来の4年生向けの講座以外に発達支援学級や卒業前の6年生に向けての依頼も増え、学校のニーズに合わせた対応の必要性を感じている。
- ・中学生向けの講座では、浜松市思春期教室や卒業前の男女別の講座の依頼が定着してきている。幅広い年代に合わせて、命の大切さを伝えていきたい。
- ・昨年に引き続き本年も浜松市主催の「いのちの手紙イベント」から依頼があった。参加者から「助産師になりたいよ。」「この話を子どもに聞かせて良かったよ」などの声かけがあり、このイベントに参加したのは大変有意義であった。
- ・有志メンバーで、鈴木せい子先生の命の教育を受講した。新たな気づきを得ることが出来、今後の活動に活かすことが出来ると感じた。

令和6年度 プレママひろば 事業報告

I. 活動内容

1. 1コース全3回（妊娠期2回・産後1回）～2回目には前年度受講者も参加～

講座時間：13：30～16：00

場所：東部保健福祉センター（いきいきプラザ天竜川2階）

申し込み人数：第13コース6組、第14コース9名、第15コース8名

	開催日	参加人数・組
第13コースー3回目	9月30日	母子6組
第14コースー1回目	7月29日	妊婦8名
ー2回目	8月26日	妊婦8名、母子6組
ー3回目	令和7年3月10日	母子9組
第15コースー1回目	令和7年2月3日	妊婦7名
ー2回目	令和7年3月6日	妊婦7名、母子5組

2. アンケート結果

- ・講座を知るきっかけは、ほぼ母子健康手帳交付時の告知である。
- ・全体的な評価は、どのコースにおいても満足度が「良い＆やや良い」と100%に近い評価をいただけた。また、それぞれのテーマに関しても、満足度が「良い＆やや良い」と100%に近い評価をいただけた。講座時間に関しては「ちょうど良い」が90%、交流会に関しては時間を長くして欲しいという意見もあった。
- ・少数派ではあったが、テキストの提供を希望する方もおられた。
- ・同時期の妊婦及び産婦と交流する機会が少ない中、対象者にとって必要な知識の提供やコミュニケーションをとることが出来る、貴重な時間となったことが感想で伺えた。特に、出産育児に対する強い不安をこの講座に参加することで前向きな気持ちへと変換できた、という意見を多数いただけた。
- ・昨年度から継続しての親子参加は半数に近い参加率であり、月日を経ても子育ての交流を図れる場へのニーズの高さを強く感じる。
- ・第14コースから対象者の出産予定日幅を前後一ヶ月ずつ広げたが、対象者間同士の話題性など違和感が強い印象は全くなかった。

3. 事業を終えて

- ・アンケート結果から例年同様、継続型講座の意義と必要性を強く感じることができた。
- ・今年度も、周知や会場使用に関して行政の多大なる協力があり非常に助かった。
- ・今年度から参加費徴収制となり、料金設定にはじまり受講後の満足度など結果に不安を抱く面もあったが、実施後のアンケートの結果を確認することで満足度の高さを確認できて安堵した。また、今年度はスタッフ人数の調整をかけた為、限られた人数で安全に実施することができるよう、より一層注意を払って行った。
- ・今年度はメンタル疾患や双胎など、行政でハイリスク管理をされている方に対して、安全面の配慮を始め、母自身の満足度がより高まるようサポートに心がけた。

令和6年度 相談事業 事業報告

I. 活動内容

1. 活動期間：令和6年4月～令和7年3月

2. 活動方法

①オンライン相談（Zoom を使用して、助産師1人で一回30分程度、相談者に対応）

金曜日：19:30～、20:30～

土曜日：13:00～、14:00～

②メール相談 隨時

③電話相談 隨時

II. 活動結果（令和7年3月末まで）

1. 相談件数：①オンライン 32件 *前年度（～3月）43件

②メール 35件 *前年度（～3月）41件

③電話 107件

2. 相談概要

乳児の体重増加 ミルク量 離乳食 寝かしつけ 泣き行動への対応 上の子への対応

乳腺炎 育児中の手術（困りごと） 復職での授乳 出産準備 妊娠期の不安

3. 事業への感想

・妊娠期から産後、子どもさんの成長に伴いリピーターになっている方もいた。

・夫婦での参加もあったが、夫に子どもを見てもらってゆっくり相談したいという方もいた。

・今年度も、各事業や訪問でチラシをもらったことを思い出して連絡した方がいた。

その中（メール）で緊急対応が必要なケースがあり、行政と医療機関に直ぐに対応していただけた。（普段のやり取りがあることが速やかな対応に繋がったと考えている）

・今年度も相談を受ける中で行政でのフォローが必要と思われる方に、本人の了承を得て行政に情報提供を行った。ハイリスク管理と思われる方については、行政と連携して対応した。

4. 課題

相談対応者が少ないままである。土曜の他事業も増えているためZoom相談は週1回程度とした。

予約日が先になる方については、急ぎの相談であるかを確認しメール対応も行った。

- * 大原則
- ・その状況に合わせて、自分で考え、行動する
 - ・大災害時、3日間は自力で生き抜く
 - ・災害時における「情報」の重要性を認識する

1. 大地震発生後の安否確認

会員とその家族の安否確認のため、下記の連絡組織図に従って連絡を取り合い、確認する

会員は、幹事への連絡に加えて、LINE グループ「ザ・浜助」も利用し、互いの安否確認を行う

2. 大地震発生時とその後の対処

1) 自分と家族の安全を守る

2) 自分のできる範囲内で地域（自治会など）での防災活動に参加する

3) 勤務助産師部会は、勤務先のマニュアルに準ずる

4) LINE グループ・メール・電話などの連絡方法もとり、互いに協力しあえるよう情報交換を行う

〈組織図〉

